

○箕面市都市景観基本計画〔改訂版〕（素案）

箕面森町(水と緑の健康都市)地区

■地区の景観特性と景観形成の課題

- 箕面森町（水と緑の健康都市）地区では、豊かな自然を享受できる住環境づくりが進められ、また、箕面グリーンロード（国道423号バイパス）や止々呂美東西線が開通するなど、大阪北摂での新たな交通結節点としての発展が見込まれ、さらに、将来的には新名神高速道路とも連絡されることから広域的な交通利便性の高い地域となることが想定されています。これらの地域特性を活かし、世代を超えて誰もがいきいきと暮らせるまちづくりが進められるとともに、良好で魅力のある都市景観の形成が期待されています。
- 地権者等からの意見などを踏まえ定められた地区計画と合わせ、特に、敷地内の緑化を始めとした地区固有の基準を定めます。具体的には地区計画と連携し、地区の区分に沿って、景観形成を図ります。

〈景観形成の方針〉

- ◇地区に関わる全ての人々が景観形成の主体として、新しいまちづくりに関わり、まちの魅力を高める
- ◇大阪北摂地域の豊かな自然環境を背景に、緑豊かなゆとりと落ち着きのある住環境と、住環境と調和した個性とにぎわいのある商業施設の立地など、自然環境を活かしたまちなみ景観を育成する
- ◇止々呂美東西線等の幹線道路や緑道は、地区の個性を活かした景観形成の軸として、緑豊かでゆとりと親しみのあるまちなみ景観を育成する
- ◇広域商業施設等の立地する止々呂美吉川線沿いでは、敷地や建物の規模感と周囲の自然との調和に配慮しつつ、質の高いまちなみ景観を育成する

■具体的な方策

（一般住宅地区1-1）

・戸建住宅を主体とし、緑豊かで落ち着きのある低層住宅地を形成する。特に、当該地区を十字に走る緑道（歩行者専用道路）は質の高い憩いの空間を形成すると共に、沿道の統一感のある建築物や緑地と一体となり「本地区の景観のシンボル」となるまちなみ景観を形成する。

（一般住宅地区1-2）

・戸建住宅を主体とし、緑豊かで落ち着きのある低層住宅地を形成する。特に、当地区の中央部を貫く地区内の幹線道路沿道は、沿道の統一感のある建築物や街路樹などと一体となった景観のシンボル軸となるまちなみ景観を形成する。また、止々呂美東西線沿道の住宅地は、本都市の入り口部にふさわしい緑豊かでゆとりのある景観を形成する。

（一般住宅地区2）

・地区のシンボルである小中一貫校を中心に、戸建住宅を主体とし、緑豊かで落ち着いたある低層住宅地を形成する。

（里山住宅地区）

・隣接する里山の裾野にゆとりある住宅地を展開しており、家庭菜園やガーデニング等里山的な土地利用など、里山景観に溶け込んだ良好なまちなみ景観を形成する。

（計画住宅地区1）

・周辺の自然環境と調和したゆとりのある戸建て住宅と幹線道路沿道に相応しい施設等により、緑豊かで賑わいのあるまちなみ景観を形成する。

（計画住宅地区2）

・周辺の自然環境や、教育施設との調和を図りつつ、幹線道路などの周辺施設と連続した緑空間を形成し、緑豊かな親しみのある景観を形成する。

（住宅隣接緑地地区）

・箕面森町を特徴づける緑地を保全し、緑豊かで親しみのある景観を形成する。

（センター施設地区）

・本地区の中心施設に相応しい、緑豊かで賑わいと潤いのあるまちなみ景観を形成する。また、近隣公園や幹線道路と連続した緑空間を形成する。

（沿道施設地区1、2）

・止々呂美東西線沿道の施設地区として、周辺の緑や住宅環境との調和を図りつつ、戸建て住宅に加え、日常生活の利便施設も立地可能な緑豊かで親しみとゆとりのある景観を形成する。

（教育施設地区）

・周辺の自然環境や住宅環境との調和を図りつつ、緑豊かで親しみとゆとりのある景観を形成する。また、緑地や幹線道路などの周辺施設と連続した緑空間を形成する。

（広域誘致施設地区）

・緑に囲まれた大規模施設地区として、特に止々呂美吉川線沿道及び森町地区内の他のエリアからの眺望を意識しつつ、すっきり落ち着いた空間構成と緑によるゆとりとうるおいに配慮した景観形成をはかる。

※網掛け部分…変更する箇所